1－3　米粉用国内産米の流通量

米粉用米は、市場規模がまだ小さく、平成26年産の取組数量を現段階で予測することは困難であることから、平成26年産の米粉用国内産米の取組計画認定数量は、平成25年産と同量の2.1万トンと見通します。

平成26年度内の流通量は、新米の出回り比率等を考慮し、2.1万トンと見通します（表３）。

表３　米粉用国内産米の流通量の推移

（単位：万トン）

| 年産 | 米粉用米の取組計画認定数量 ① | 26年度内出回り比率 ② | 米粉用米の26年度流通量 ①×② |
|---|---|---|---|
| 平成21 | 1.3 | | |
| 22 | 2.8 | | |
| 23 | 4.0 | | |
| 24 | 3.4 | | |
| 25 | 2.1 | 25.0％ | 0.5 |
| 26見通し | 2.1 | 75.0％ | 1.6 |
| 26年度流通量見通し | | | 2.1 |

資料：新規需要米取組計画認定結果（農林水産省調べ）

注：１）出回り比率は、新米の出回り時期を踏まえ、前年産が当年４～６月、当年産が７月～翌年３月までとして算出したものである。

２）26年産取組計画認定数量は、25年産取組計画認定数量と同量としている。

1－4　外国産食糧用小麦の需要量

平成26年度の外国産食糧用小麦の需要量は、食糧用小麦の総需要量571万トンから国内産食糧用小麦流通量77万トン及び米粉用国内産米流通量２万トンを差し引いて492万トンと見通します（表４）。

1－5　外国産食糧用小麦の備蓄目標数量

現在、不測の事態に備え、国全体として外国産食糧用小麦の需要量の2.3か月分の備蓄を行っています。

このため、平成26年度の備蓄目標は、94万トンとします（表４）。

なお、民間の実需者が2.3か月分を備蓄する場合、そのうち1.8か月分について、国が保管料を助成します。

1－6　外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）

平成26年度の外国産食糧用小麦の輸入量は、外国産食糧用小麦の需要量に備蓄数量の増加分を加えた493万トンと見通します（表４）。

なお、飼料用小麦の輸入については、別途、農林水産大臣が定める飼料需給計画に基づき行います。

表４　平成26年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 総需要量 | | A | 571 |
| 国内産 | 国内産食糧用小麦の流通量 | B | 77 |
| | 米粉用国内産米の流通量 | C | 2 |
| | 計 | D＝B＋C | 79 |
| 外国産食糧用小麦の需要量 | | E＝A－D | 492 |
| 外国産食糧用小麦の備蓄数量 | | | |
| | 25年度（見込み） | a | 94 (93.8) |
| | 26年度（目標） | b | 94 (94.3) |
| | 増減 | F＝b－a | 1 (0.5) |
| 外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量） | | G＝E＋F | 493 |

注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

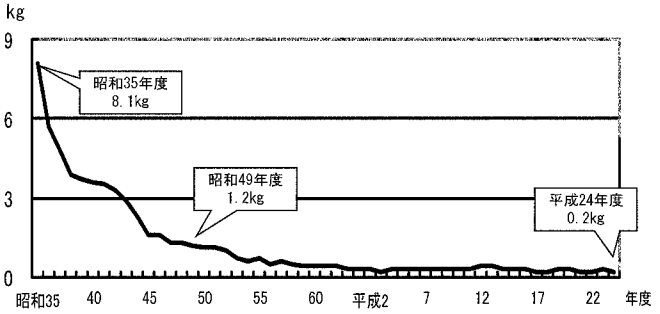
2－1　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

近年、食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.2～0.3kgで推移している中（図２）、総人口についても、ここ数年では大きな変動がみられません。

このため、平成26年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量(注)は、近年の平均的な需要量になると見込まれることから、過去５か年（平成21年度から平成25年度まで）の平均総需要量である33万トンと見通します（表５）。

(注)　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通数量及び政府からの外国産食糧用大麦及びはだか麦の販売数量の合計である。ただし、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給される国内産ビール大麦は含まない（以下同じ。）。

図２　食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移（１人１年当たり）




資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成24年度の数値は概算値である。

表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

| 年度 | 総需要量 | 対前年度比 |
|---|---|---|
| 平成19 | 24 | 45％ |